

## サロマ湖100キロウルトラマラソンに 再度挑戦

2013年11月号「がんと生きる」に登場した、 大久保淳一さん(50歳)が6月29日北海道で 行われた、第29回サロマ湖100キロウルトラ マラソンに挑み、病気後の記録を塗り替える 好成績で完走した。

大久保さんは2007年、マラソンのトレーニング中、足に大怪我をして入院。そのさなかに、医師から、精巣腫瘍のステージⅢB2期、腹部と肺と首のリンパ節に転移があり、最終ステージと告げられた。42歳、働き盛りのときである。

しかし、持ち前の闘志で、肺線維症を併発 しながらも病を乗り切り、2009年、職場復帰 を果たした。

大久保さんが初めてサロマ湖100キロマラソンに挑戦したのは39歳、2003年6月のことである。以来、4回連続で挑戦して、すべて完走した。しかし、病気で中断していたが、昨年6月に病後初めて挑み、みごと完走。今年は病気前の記録を上回ることを目標に、再チャレンジした。

以下は大久保淳一さんから寄せられた手記 です。



第29回サロマ湖100キロウルトラマラソンのコース

## 再びサロマ湖畔のスタート地点に立つ

2014年6月29日、午前4時50分、北海道・ 湧別町。

あれから1年。私は、再び、サロマ湖100km マラソンのスタートラインに立っていた。



30度を超える気温にも軽快な足取りで走る大久保さん(左から2人目)

今しがた、シドニー・オリンピック銀メダリストのエリック・ワイナイナ選手の紹介が終わった。さすが「IAU100kmワールドチャンピオンシップ2014日本代表選考競技会」を兼ねた大会だけある。凄い選手たちが参加している。

昨年、私はがんと難病の治療を経て、7年 ぶりにこの大会に復帰した。以来、さまざま

#### 次号予告

# 乳がん特集

**鎌田實対談** 

私の生きる道 ドクター中松 (発明家)

なメディアが私を取り上げてくれた。

精巣腫瘍・最終ステージ、しかも合併症から難病・肺線維症をも併発したランナー。生存率2割以下の厳しい状況から社会復帰を果たし、さらに100kmという超長距離マラソンに返り咲くことは、多くの患者さんとその家族を勇気づけるとされた。

しかし、去年の昔話なんか私にはどうでも よかった。なぜなら、闘病当時、私が目指し ていたのは単に100kmマラソンに復帰するこ とではなく、病気前のベストタイムを更新す ることだったから。

今、ようやくその挑戦が出来る。

#### 朝9時に最高気温30度のなかを走る

あれから8年。

年齢は50歳になり確実に年をとった。しかも病気と治療により、肺機能の1/3を失っている。しかし、ハンディを負ってもなお、病気前の自分を越えたい。ゴールタイムで、病気前の自己記録を更新できれば、昔の自分を越え、さらなる高みへ登れたことが数字で解

る。その挑戦をやってみたかった。

午前5時。

スタートの号砲とともに、3,500人のランナ ーが一斉に動き出した。

長い長い1日が始まった。

厳しいのは、50km地点以降、10km毎にある 制限時間関門。今回から10km、20kmの関門が 新設されたほか、各関門の閉鎖時間も変更に なった。多くの鉄人ランナーたちが、関門を 通過できずリタイヤを余儀なくされる。まさ にサバイバル・レースである。

この日、朝9時から最高気温の30度に達し、 北海道で稀にみる厳しい気象条件となった。

暑い日に行うマラソンなんで、信じられない。そんな中、私は病気前の記録を更新するために、高速ピッチで5km毎のラップを刻み、攻めに攻め続けていた。今年2月から、毎月400km前後を走り込み臨んだ最も重要な大会なのだから。

## マラソン復帰などとんでもない

「大久保さん、マラソン復帰なんてとても難 しいと思いますよ……」

「今は、普通の生活に戻ることを目指すべき です。命だって危ないのですから |

7年前の当時、親身になって診てくれた呼吸器内科の先生の言葉だ。命をつないでも、 在宅酸素ボンベの生活になる可能性が、と言われた頃だった。

「俺、もうダメなのかな……」

病状が悪化したころ、情けない思いが一瞬 頭をかすめた。そんな弱気で、意気地なしだ った過去の自分を否定するために走る。

それは、自分なりの医学への挑戦だった。

## 夢をあきらめずに、走り続ける

灼熱地獄の中、決してあきらめずに走り続けていたが、60km地点で相当な疲労が出てくる。そして鬼門の70km地点、脚だけではなく、全身が限界を越えていると訴える。それでも、いまだ夢をあきらめられない。

振り返ればこの日、完走率が僅か56%という、過酷なコンディションだった。そもそも自己記録の更新など、狙える大会ではなかったのだ。

にもかかわらず、私は、悲願に向け全力で 走っていた。しかし、73km地点、明らかに脚 が止まり、ついに病気前の記録更新を諦める。

このとき、自分にはもう何も残っていない ほど、身体は動いてくれなかった。

「神様、どうか、せめて病気後の記録更新の チャンスまでは奪わないで下さい |

そんな思いから、動かない脚を前へ、前へ と運んでいた。

#### 病気後の記録を更新してゴール!

振り返ってみて、73km地点からの残り27km が最も厳しかった。精神的にも限界を越えて いたが、どうしても病気後の記録更新という 成長の証しが欲しかった。

周囲には、座り込んで収容バスを待つラン ナーたちがたくさんいる。そんな中、懸命に 身体を前へ進めて行った。

99㎞地点に入ると沿道に人垣ができる \*ビ



病気後の記録を2分縮めて12時間37分17秒で完走した大久保さん

クトリーロード、に入る。

100km完走を果たすウルトラランナーたちが温かく迎えられる。友人たちが叫ぶ中、大会のアナウンスが聞こえる。

「2192番、大久保さんが返ってきました。お 帰りなさい!」

夢のような舞台の中、懸命に走り抜けた。

「12時間37分17秒」

病気後の記録を2分短縮してのゴールだっ た。

半数近くの健常者ランナーがリタイヤした 過酷なレース、素直に病気後更新を喜んだ。 悲願の病気前の記録更新の挑戦は来年の楽し みにすることにした。

生かしてもらった元患者として、次のチャンスを活かしていきたい。(大久保淳一) S

### お便り募集

「読者の交差点」はあなたのページです。 闘病生活の中で気がついたこと、考えたことなど、なんでもお寄せください。

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-11-8 淡路町UKビル3F (株)エビデンス社 「がんサポート」読者係宛 FAX:03-3526-6303 E-mail:info@evidence-inc.ip